

校長室だより第 16 号（令和 7 年 7 月 10 日）

『子どもたちは元気です』

7 月も 2 週目となりました。相変わらず暑い日が続いていますが、休み時間になると多くの子どもたちがギラギラ輝く太陽のもとで元気に遊んでいます。

外遊びは推奨したいのですが、熱中症になるのではないかとひやひやしながら見守っています。私は、WBGT（暑さ指数計）とにらめっこ。数値が危険領域を示していないかを見ています。小倉の街は風通しがいいのか、はたまた運がいいのかはわかりませんが、ギリギリのところで「外遊び禁止。運動禁止。」とはなっていません。

それにしても子どもたちの元気なこと。そして一緒に遊ぶ先生方もすばらしい。昔は私自身も暑さなどかまわず遊んでいたのですが、朝のあいさつで校門付近に 30 分間立っているのが精一杯です。だいたい『昔は』などという言葉を使うようになったら、年を取ったということですね。トホホ……。

『研究のこと』

7 月上旬に 3 つの小学校の授業を参観する機会がありました。

A 小学校では、課題を意欲的に解決するためには、「問題提示の仕方」と考える拠り所となる「ことば」が重要だとして、授業を行っていました。

B 小学校では、活用力（学んだことを生かす力）を培い、高めるための授業に挑戦していました。

C 小学校では、課題解決のためには、まず「見通し」を持つことが重要と考え、「見通し」を持たせるための工夫を行っていました。

実は 3 校共に「算数科」を研究しています。同じ教科なのですが、学校によって切り口が違います。そこが面白いと思います。

このように教師は日々の授業のために教材研究を行っています。少しでも教科書の内容を

わかりやすく教え、子どもたちに理解してもらうためにです。

同じ学習でも、言葉がけ一つで、場づくり一つで授業が変わります。

例えば、マット運動の学習。マットの並べ方を変えるだけで子どもたちの動きが変わります。また、「忍者のように走ってごらん。」と教師が言葉をかけると、子どもたちは足音を立てずに素早く走ります。

私の説明では読んでいる方にイメージを持ってもらうことは難しいかもしれませんが、教師はよい授業をするために頑張っているのです。なぜなら、教えることが仕事の一つであり、「わかった。」「できた。」という子どもたちの笑顔を見たいと思っているからです。